

緻密な顕微鏡下手術にも熟達

# 脳神経外科医が診る 脊椎脊髄疾患



水野 順一

新百合ヶ丘総合病院  
低侵襲脊髄手術センター長

特別寄稿

## 海外では脳神経外科により 行われるケースが多い

脊椎脊髄手術は従来から日本では整形外科医が行ってきた歴史があり、どうしても他の骨格の手術と同列に見られる傾向があります。しかし、脊柱管には中枢神経である脳から連続する「脊髄」と呼ばれる四肢の運動知覚機能を司る重要な神経組織があり、脳神経外科の領域でもあります。実際、英語では脳神経外科について、脳から脊髄にいたるまで包括した「Neurosurgery（神経外科）」と呼ばれており、欧米や韓国では脊椎脊髄手術の多くは脳神経外科医により行われています。

脳神経外科が行う利点として、顕微鏡に習熟していることが挙げられます。マイクロサージャリーとも呼

ばれる顕微鏡下脊椎脊髄手術は、繊細な手術技能が求められるものの、切開を小さくし、筋肉や骨の損傷を抑えた手術を可能にします。脳神経外科医は6年間の研修を行うことになっていますが、その間に訓練を十分に言い、顕微鏡を用いた手術に習熟しているのです。

脊髄は直径十数ミリの大きさの楕円形もしくは扁平ハート型をし、脊柱管のなかに位置しています。脊髄は硬膜という膜組織に覆われていますが、椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症などの圧迫病変が生じると、脊髄は硬膜ごと変形し、神経脱落症状を起こします。この状況になると脊柱管と脊髄の間に存在するゆとりが減少・消失するため、ヘルニア塊などを摘出する際に慎重さがないと容易に硬膜や脊髄にダメージを与えてしまいます。それを恐れて手術のタイミングが遅れ、神経の回復が不十分になることもあります。顕微鏡の使用は、このような事態の防止にも大きく貢献します。脊椎脊髄手術は必ずマイクロサージャリー、低侵襲手術であるべきです。そこに脳神経外科の技術が大きく役立つことでしょ